

1 検査部

連絡先:075-751-3502(部長室)
075-751-3480(技師長室)

■診療部の特徴

1)先進医療のサポート

- ・検査の迅速報告と業務の効率化、低コスト化

2)感染症診療の情報源

- ・感染制御部との密な連携

3)生体検査の充実

- ・超音波検査センターおよび睡眠脳波検査の拡充

4)遺伝子細胞検査

- ・遺伝子検査によるガン診療の貢献



緊急検査室で始まった凝固検査

■沿革と業務体制

臨床検査業務を行う検査部は中央診療施設の主要部門として、当大学病院が果たす地域医療機関としての役割、最先端高度医療の推進および教育機関としての責務に貢献できる体制を整えている。診療、研修および研究の支援部門として迅速で質の高い臨床検査を診療側へ提供している。

■業務内容の特徴と実績

1)今年度の取り組み

平成20年度の全検査件数は約655万件であり、平成19年度比で約7%増加した。増加傾向は全検査項目で見られたが、特に生理検査部門で19%の伸びが見られた。超音波検査センター関連と平成19年度概算整備に関連する分野での高い増加率を示した。検査依頼件数の増加は臨床検査そのものの需要増加を表すが、医療の質を担保する観点から、より効率的な検査オーダーによる検査件数の低減が求められている(付表)。

平成20年度の新たな取り組みとして、終夜睡眠ポリグラフ(PSG)検査、栄養アセスメント蛋白検査等4項目、夜間休日緊急検査に凝固検査5項目および24時間グラム染色検査の運用を開始した。また、微生物検査部門の365日の休日出勤体制、脳波至急検査のオンコール

体制を実現するなど、診療各科からの検査ニーズに機動的な対応を行っている。臨床から信頼され質の高い検査部を目指している。

外来中央採血室は安定的に稼働しており検査部全体で取り組む体制が整っている。システム検査部門を中心に生理機能検査など全検査部門のスタッフが協力して採血業務に取り組んでいる。

病院全体の取り組みにも積極的に協力している。本年のオープンホスピタルには超音波検査装置2台と技師5名が参加して、会場を訪れた方に超音波検査の実際を体験していただき好評を得ている。

検査部ホームページは3年を経過し、新規検査項目の詳細掲載やパニック値の解説などタイムリーな記事を提供している。新たに当院で利用できる臨床検査の詳細な解説をホームページで確認できる仕組みを設けるなど、月平均2回以上の更新を行うアクティブなホームページとして院内外の利用が高まっている。

2)システム検査部門

当部門は、検査業務の効率化、迅速化、省力化、低コスト化を実現する自動化検査部門である。

外来患者採血から結果報告まで高度にシステム化され、短時間の検査時間と相まって外来診察前検査や検査後再診察等の患者サービス改善に寄与している。

本年度はHbA1c測定装置が更新され、分析時間が120秒から48秒に短縮され測定精度も向上した。新規項目として栄養アセスメント蛋白検査3項目(pre-Alb, RBP, トランスフェリン)、亜鉛、および夜間休日の緊急検査に凝固検査5項目(PT、APTT、Fib、ATIII、Dダイマー)を追加した。凝固検査開始後は夜間休日に30件を超える検査依頼を受けており診療利便性の向上に寄与している。



ヘモグロビンA1c検査装置

3) 遺伝子細胞部門

当部門は、ウイルス感染症、免疫不全症、造血器悪性腫瘍の診断に必要な検査を行っている。ヒトの病的細胞を遺伝子学的に診断する方法は急速に進歩しており、保険適応も進みつつある。特に血液細胞核酸増幅同定検査のニーズが高いことから、血液・腫瘍内科や移植外科と連携しつつ積極的に検査導入を行っている。

また、血液・腫瘍内科と連携した樹状細胞による急性骨髄性白血病に対する細胞免疫療法や他大学と連携したサイトメガロウイルス・EBウイルス検査標準化法の確立など、院内外の先進医療を支援している。

4) 微生物検査部門

当部門は、感染症診療の情報発信源として感染制御部との密な連携を通して、臨床現場で役立つ情報を提供し感染症診療に貢献している。平成20年5月1日から微生物検査部門は365日の検査体制を開始し、血液培養結果など重要な検査結果が遅延無く報告できるようになった。

また、緊急検査室と連携して24時間グラム染色鏡検のオンコールサポートの対応も開始した。地域医療支援活動として京都府下の病院・診療所に対して院内感染対策チームの一員として感染制御認定臨床微生物検査技師(ICMT)派遣を行っている。

5) 生理機能検査部門

当部門は、種々の診断機器を用いて臨床診断に必要な情報を患者から直接検査する部門である。主な検査項目としては、脳波、筋電図、誘発電位、神経伝導速度測定などの脳・神経・筋系検査、呼吸機能、心電図、ホルター心電図、トレッドミル運動負荷心電図、腹部超音波、心臓超音波・血管超音波などの呼吸・循環器系の検査を行っている。さらに、大血管や腎動脈、四肢の動脈および静脈の評価にも取り組んでいる。新たに光トポグラフィー検査装置と血圧脈波検査装置(ABI)が導入され、新規の検査項目として運用を開始した。当部門の特徴としては、脳死判定を含めた病棟への出張脳波検査(ABRを含む)が挙げられる。

平成20年10月には南西病棟5階に睡眠脳波検査室・病室が整備され、睡眠ポリソムノグラフィー(PSG)検査がスタートした。呼吸管理・睡眠制御学講座と連携して検査実績を着実に積み重ねている。なお、本検査は夜間の患者睡眠中に行うために、完全夜勤制と準夜帯シフト勤務体制を新たに設定して業務対応を行っている。



睡眠ポリソムノグラフィー検査

■ 高度医療等への貢献

検査部は中央診療施設として各診療科における先進的医療を支える立場にある。検査項目によってはそれ自体が先進的内容であるものもある。EBウイルスやサイトメガロウイルスの定量検査は、移植医療において欠かせないものとなっている。

今後、ヒト病原遺伝子検査や超音波検査センター機能の拡充などを通じて、幅広い検査領域から高度医療を積極的にサポートしていくものである。

当部はチーム医療へ積極的に取り組んでいる。入院患者の糖尿病教室における検査指導、NSTへの参加および病棟での採痰指導を行い患者・診療側双方から好評を得ている。

新しい臨床検査の実践と診療科・各部門と連携した臨床検査サービスの提供を通じて高度医療への貢献を続けている。

● 平成20年度検査部検査 件数 (件)

検査項目	外来	入院	合計
一般検査	124,047	50,068	174,115
血液学的検査	456,229	333,000	789,229
生化学的検査	2,649,974	1,639,236	4,289,210
内分泌学的検査	128,399	42,069	170,468
免疫学的検査	224,574	124,224	348,798
微生物学的検査	18,870	66,591	85,461
病理学的検査	18,126	12,594	30,720
その他の検体検査	2,447	3,245	5,692
検体検査 小計	3,622,666	2,271,027	5,893,693
(時間外・緊急検査)	(85,834)	(370,217)	(456,051)
循環器機能検査	19,423	6,719	26,142
脳・神経機能検査	2,446	1,091	3,537
呼吸機能検査	9,403	4,828	14,231
超音波検査	14,709	4,491	19,200
その他の生理検査	255	13	268
生理機能 小計	46,236	17,142	63,378
採血・採液等	135,426	105	135,531
合計	3,890,162	2,658,491	6,548,653